



YOKOHAMA ASAHI ROTARY CLUB WEEKLY

「ロータリー：変化をもたらす」 Rotary: Making a Difference

2017-18年度 RI会長／イアン H.S.ライズリー RI.D2590ガバナー／湯川 孝則 横浜旭RC会長／滝澤 亮

国際ロータリー第2590地区

横浜旭ロータリークラブ

事務所 横浜市旭区二俣川1-37-3 NUTS1階/〒241-0821
TEL.045-465-6702/FAX.045-465-6712
http://yokohamaasahirc.cho88.com
Email:asahirc@titan.ocn.ne.jp

例会場 横浜市旭区二俣川1-45-30工藤ビル
(榎岡田屋3階会議室)

例会日 毎週水曜日/12時30分～1時30分



旭区民まつりにて熊本みかん販売



熊本自転車支援



ガールスカウトとクリーン作戦

2018年2月21日 第2325回例会 VOL. 49 No. 30

■司 会 SAA 後藤 英則

■開会点鐘 会 長 滝澤 亮

■斉 唱 手に手つないで

■出席報告

会員数	31名	本日の出席数	25名
本日の出席率	86.21%	修正出席率	100%

■本日の欠席者

齋藤、福村、佐藤（真）、二宮（麻）

■皆出席者表彰



安藤 公一会員 13年

北澤 正浩会員 5年

二宮 登会員 48年

■会長報告

皆様、こんにちは。先日18日の安藤達雄会員のご葬儀にご参集いただきました会員には、誠にご苦勞様でした。安藤公一会員にはお悔やみを申し上げます。湯川ガバナーの取り計らいにより献花と香典を頂いております。

又、私事で恐縮ですが、心臓に不具合が見

つかり手術のため入院致します。会員皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、よろしくお願い申し上げます。

■幹事報告

1) 例会臨時変更のお知らせ

○横浜港北ロータリークラブ

日時 3月1日(木)→3日(土) IM 移動例会

日時 3月8日(木)夜間例会

台湾劍譚 RC 来訪

日時 3月29日(木)→31日(土)

第4グループ観桜会

点鐘 12時30分

場所 横浜ベイシェラトン

○横浜保土ヶ谷ロータリークラブ

日時 3月6日(火)夜間移動例会

点鐘 午後5時30分

場所 レストラン 味蕾亭 Tel 045-441-3488

■国際奉仕委員会

青木 邦弘

1) 2月7日卓話をいただきました横浜市教育委員会の甘粕様から要望されましたネパールの人をあざみRCの一楽様からご紹介いただきました。ガバナー事務所では、留学生のその後は全く把握していないとのことでした。

2) 旭RC・日本語ボランティア計画

○現在の活動状況

代表は濱屋さん。

講師は24人 全員ボランティア

場所 鶴ヶ峰ココロット

木曜日を除く毎日

13時～16時まで開催

小学生2人、中学生2人、大人約50人
教科書初級編4部、中級編2部は本人負担
授業1回100円も本人負担
先生一人に生徒1～3人
遠足年2回（自己負担）

12月のパーティーは先生の持ち寄りで開催

* 現在13年続けている

○旭日本語ボランティア支援計画

・教科書無償支援

初級編4部構成1冊1,400円×4 5,600円
中級編2部構成1冊1,400円×2 2,800円

* 貸出対応とし、汚れたら再購入とする

・遠足支援（年2回）12月パーティー支援

○今回の支援計画

・春の遠足支援

参加者 外国人とその子ども約30人

講師とロータリアン20人

予算12万円

* 一人当たり1,000円～2,000円の寄付をお願い致します！

■塩麻里奈さん、月例レポート1月報告

皆さんあけましておめでとうございます。
今年もどうぞよろしくお祈りします。

最初に、先月のレポートで書けなかった12月31日の年越しの様子をご紹介します。日本にいた時は毎年家族でテレビを見ながら家でのんびり年越しをしていましたので、同じように今年も、現在の家族であるホストファミリーと一緒に家で年越しをしようと思っていました。しかし、12月31日の前日に、仲良くしている留学生のグループの仲間から一緒に年越しをしないかと誘われました。大晦日の外はかなり混むとホストマザーに言われていたので行こうか迷いましたが、一生に一度しかない体験だと思ったので行くことにしました。場所は台北101と言う台北で有名な高いビルの年越しイベントでした。台北101の近辺は、早く行かないと交通整理で入れなくなってしまうと言われたので、年越しの始まる約6時間前の6時にみんなで集まりゆっくり夕飯を食べながら年越しを待ちました。日本ほど台湾は寒くないので、外で待っていてもそれほど寒さは感じませんでした。しかし、6時間という長い間、暇を潰すのはなかなか大変でした。年越しまであと1時間と迫った時、他の地区に留学している日本人の女の子から連絡が来ました。その子は台北ではなく

台北から少し離れた台中というところに留学していて普段は全く会うことはありませんでしたので、時間があったら会いたいなと話していましたが、私もその子も予定があるのでなかなか会えないだろうと思ってい



ました。しかし、幸運にもその友人が、その日は地区の旅行で台北に来ていましたので、台北101のカウントダウンで何とか会うことができました。その子は毎日中国語の勉強があると言っていたので私よりもはるかに中国語を話せるんだろうと思い、私も頑張る必要があると思いました。その友人と短い間話をしてからみんなの所へ戻り年越しをしました。10秒前からカウントダウンが始まり、この1年を振り返ると、いろいろなことを経験させてもらったのだと思い返していると、年が明けました。こんなに華やかな年越しは人生で初めてだったので凄く楽しかったのですが、家に帰るのにとっても苦労しました。というのも台北101のそばの電車の駅は人がたくさん入るとホームに落ちてしまう可能性があるため入場規制がかかります。1番近くの駅は何時間待っても入れない可能性があったので、隣の駅まで歩きました。しかし隣の駅も人でいっぱい結局20分ぐらい待ってから駅に入りホームで10分以上待ちやっと電車に乗ることができました。家まではそんなに遠くはなかったのですがいつもの2倍以上の時間をかけてやっと家に帰ることができました。家に帰るともう夜中の2時を少し回っていました。ホストマザーはまだ起きて待っていてくれて、「楽しかった？もう遅いからシャワー入って早く寝なさい」とだけ言って寝室に入っていました。後から聞いた話ですが、年越しの時にお酒を飲んでしまう留学生が多らしく家に着く前に外で寝てしまうということが毎年あるそうです。ホストマザーは私がお酒を飲まないのを知っていますが、そういうことに巻き込まれて家に帰って来なかったらどうしようと心配してくれていたそうです。幸い、私の友達たちはみんなお酒を飲まないの

でそのようなことに巻き込まれることなく帰ってこれることができました。つくづく友達に恵まれたことに感謝すると同時に、心配してくれるホストファミリーがいてとても嬉しく思いました。

話は変わりますが、1月5日に中国語の朗読コンテストがありました。12月の最終週の火曜日にどの題目を読むか自分で決めて、ロータリアンや留学生の前で読むことによって、中国語をどれくらい話せるか試されるコンテストでした。私は題目を決めてから毎日ホストマザーにアドバイスをもらいながら一緒に読みました。私が決めた題目は「塞翁が馬」と言う日本でもなじみのある漢文のものです。中国語で読むと少し意味が違うところもあり読んでいて楽しかったです。本番では、かまわずにすらすらと読むことができましたが、他にも上手い子が沢山いて入賞することができませんでした。しかし、中国語を教えてもらうことでホストマザーとたくさん話すことができましたし、自分より中国語が上手い留学生がたくさんいるということを知ることができて、良い機会でした。また、このような機会があると思うのでその時には絶対に賞をもらえるようにもっとがんばります。

さて、アメリカ人の友達に誘われてダンスの練習をしていると以前のレポートでもご報告していたと思いますが、ついに1月にそのダンスを披露する機会がありました。正直何のために練習してるのかよくわかっていませんでしたが、それは今月の中旬にあったスピーチとパフォーマンスで中国語の習得状況をロータリーの方々に披露するコンテストのために練習していたそうです。ただこのコンテストにはロータリーの留学生だけではなく大学生として留学してきた他の留学生も参加するため、なかなか入賞が難しいものでした。自由参加だったためほとんどの留学生が参加しませんでした。それでも私のグループのほかにロータリーからは3つのグループが参加していました。大学生の留学生たちは、留学前に自国で中国語を勉強しており、中国語の習熟度が高く、私は、彼らが話していることをやっとのことで理解するほど、とっても上手でした。

パフォーマンスはどんなことをしても良いのですが、私が最もすごいと感じたことは中国語で作詞作曲した曲を歌っている人たちが

いたことです。歌を作曲することだけでも難しいことなのにそれを中国語でやってしまうなんて驚きで、とても尊敬しました。私は、入賞は難しいと思いましたが、今まで練習してきたことを精一杯出そうと思い、ステージの上では笑顔を忘れずに楽しむことを一番に考えパフォーマンスをしました。その結果、今までで1番良いパフォーマンスができたと感じました。他のグループのレベルの高さに驚きの連続でしたので、結果発表の時に私たちのグループが呼ばれることはないと思っていたのですが1番最初に私たちのグループの名前が呼ばれました。もらった賞はロータリー特別賞と呼ばれるロータリーの参加者の中で良かったグループに与えられる賞でした。まさかそんな賞がもらえるとは思っていなかったのでも嬉しくなり、グループの仲間と抱き合いながら賞状をもらいました。私はダンスもスピーチもなかなか覚えられなくて、他の2人にかなり迷惑をかけてしまったと思いますが、それでも一生懸命練習してよかったと思えました。コンテストの終了後、グループのメンバーの2人が、私のスピーチはとっても良かったしダンスもいつもニコニコしていてとてもムードが華やかになったと褒めてくれました。今までたくさん練習したので、優勝できなかったのはすごく残念ですが、誘ってくれた友達、一緒に練習手伝ってくれた周りのホストファミリーや学校の先生にもすごく感謝の気持ちでいっぱいです。これからもスピーチコンテストなどに積極的に参加して自分の中国語を磨いていけるように頑張りたいです。このコンテストは、私にとって苦手意識を持っていたダンスや中国語でのスピーチに対して自分の気持ちを少し変えられるとても良い機会になりました。最初から苦手だと思っただけではなく何事にも挑戦していくことが大切だということ学びました。



台湾に来て約5ヶ月が過ぎました。5ヶ月とは留學生活の半分を指します。本当にあつという間できっと残りの半分はもっとあつという間に過ぎてしまうのではないかと不安に思うこともあります。毎日自分なりに一生懸命中国語の勉強や台湾の文化を勉強できていると思うので焦りはありません。来たばかりのときには泣いたり日本がすごく恋しくなったりホームシックになったりしましたが今では日本と台湾の違いを冷静に受け止めることができ楽しく毎日過ごしています。ふと去年の今頃は何をしていたんだろうと思うことがあります。この間来年度の台湾派遣候補生とLINEで話す機会がありました。去年の今頃は、台湾に派遣先が決まり、台湾はどんなところだろう何を勉強したらいいんだろうと不安や期待の入り混じった気持ちだったことを覚えています。派遣候補生に選ばれたのが本当に昨日の事のように感じます。もう私が派遣候補生に選ばれてから1年以上経っていると思うと本当にあつという間です。台湾派遣候補生には、まだアドバイスをできるほど私も成長していないとも思いましたが、台湾にいる今しか話せないこともあると思ったのでいろいろ伝えました。実際に来てみないと分からない台湾についてのことなど、留學前にローテックスの人が教えてくれた通りだと感じることも多くあり、ロータリーのローテックスの制度はとても重要だと思いました。私が日本に帰った後は、3年間ローテックスとして、台湾に派遣される人たちに台湾についての情報や私が苦労したことなどを伝えて、その人たちの助けになりたいと思いました。そのために今台湾でいろいろな場所に行き日本との違いを感じたくさん勉強していろいろな情報を日本に持って帰れたらいいなと思いました。

■雑誌委員会 安藤 公一

○ロータリーの友2月号紹介

1) 横組み P5～P6

今月2月23日はロータリー創立記念日です。P5にはポール・ハリス以下の創立メンバーの写真とP6には誕生した経緯、その下には日本ロータリー誕生の話も載っています。簡単に読めますので是非ご一読を。

2) 今月のテーマは「平和と紛争予防/紛争解決月間」です。P8-9の川妻二郎さんの手記「原爆から生き残る」は短いが強烈

です。御年90歳のロータリアンが原爆の体験を書いておられます。戦争の悲惨さを語り継ぐことも紛争予防の大きな部分を占めていることを再認識しました。

続くP10には小学6年生の「平和について考えるきっかけに」という作文で鹿屋基地からの特攻隊の話が載っています。P14には「私の考える平和とは」というテーマの中で我が2590地区の横浜西RCの吉川さんという弁護士が「戦没画学生の遺作に思う」という記事があります。以前TV番組で紹介された長野建上田市にある「無言館」という美術館には美術学校から出征した学生の遺作が数多く展示されており、そこを訪れて感じたことが記されています。私自身、毎年大学ラグビーの合宿で訪れている菅平に行く際に、今度訪ねてみようと思っています。

3) P24は「米山記念奨学事業50年のあゆみ」-1980年代-は、本事業を理解していく上でとても有用な内容です。今一つ理解が浅いとおもわれている方は是非ご一読を。

4) P26下段に題2590地区の地区大会の記事が載っています。

5) 縦組みP4-8の「戦線からの生還・開拓・奨学金」は川越RCの95歳の今泉会員(1993-4年度第2570地区パストガバナー)の手記です。筆者の戦時中のビルマでの体験からビルマ(現ミャンマー)への恩返しとして奨学金立ち上げへの道りが記されています。

6) 縦組みP22「柳壇」に吉原さんの句いとこ会 無病一人で 恥ずかしいが解説付きで載っていました。

■5分間情報

倉本 宏昭



○冬季オリンピックがおこなわれている「平昌」について

2018年冬季オリンピックが韓国の平昌で開幕しました。期日は2/9(金)から25日(月)までの17日間です。

「平昌」は韓国の北東部、ソウルから東に車で

約3時間。平均標高は700mで、夏は避暑地、冬はスキーリゾートとして多くの観光客が訪れている所ですが、冬の寒さは韓国厳寒の地といわれているそうです。2002年に放映された「冬のソナタ」のロケ地として知られていて、日本の長野県のような所だそうです。この時期の気温は平均で-0.9℃、日中-5.9℃、最低-10.9℃。平均気温では札幌-3.1℃、長野の白馬-2.6℃よりも低く、更にこの寒さに風が加わることが多く、体感温度はかなり低くなって、選手を悩ませているようです。8月は平均22.9℃、日中19.0℃、最低15.8℃で、住みやすそうですが雨が多いということです。

特産品はそば、朝鮮牛、日本海でとれるスケソウダラを干した「ファンテ」という食べ物があるそうですがどんな味か知りません。

オリンピックといえば表彰台ですが、形状は韓国伝統建築様式の瓦屋根の曲線美を生かしたもので、屋根に積もる雪を連想させる白い色。表彰式のスタッフの衣装は、オリンピックの精神や韓国のアイデンティティー、更に平昌の寒さを盛り込んで、韓国国旗の青と赤に雪の結晶をデザインしたもので、冬用の韓国伝統衣装であるトウルマギとドンパン、飾り物の風車、トシとよばれる腕巻き、首巻きなどを活用した防寒着です。メダリストに渡される記念品のうち、ぬいぐるみは、スホランという白虎に昔、朝鮮王朝時代に王様から授かった御賜花を被せたものだそうです。

残りわずかですが、日本人選手の活躍を祈りましょう。

■がんセミナーにつきまして 大川 伸一
来る3月24日(土)のがんセミナーの現在の登録人数はまだ14名です。皆様、参加者のリクルートをどうぞよろしくお願いいたします。

■ニコニコBOX (会員敬称略)

滝澤 亮/また入院して手術をすることになりました。皆様にご迷惑をおかけいたします。

田川 富男/安藤達雄さん、淋しいことです。旭ロータリークラブを作った方の存在感は、なんと大きいのでしょうか。

安藤 公一/①兵藤さん、卓話宜しくお願います。②2/19の父、達雄の葬儀に際し、ご多用の中ご列席賜り、有難うございました。③皆出席を頂きありがとうございます。もう13年も経つ事に驚いています。④平昌五輪での日本人の活躍を祝って。

宋 謹衣/いよいよ女子フィギュアスケート日本代表の宮原選手と坂本選手が登場します。必ず優勝します！

目黒 恵一/兵藤会員、卓話楽しみです。よろしくお願います。

倉本 宏昭/今日は5分間情報の担当です。後藤さんが5分1000円だと…②兵藤さん、卓話久しぶりですね。楽しみです。

須藤 亘/本日の卓話、兵藤会員宜しくお願います。

太田 勝典/兵藤さん、卓話楽しみにしております。

青木 邦弘/①兵藤先生、卓話楽しみです。②国際奉仕から、ご寄付をお願い申し上げます！

大川 伸一/兵藤先生、本日の卓話をよろしくお願います。

後藤 英則/兵藤会員、卓話楽し味です。

市川 慎二/兵藤先生、いつもの楽しい卓話楽しみです。

内田 敏/兵藤さん、本日の卓話楽しみです。

新川 尚/兵藤さん、卓話楽しみです。

佐藤 利明/兵藤先生、卓話楽しみにしています。

吉原 則光/兵藤さんの卓話、大変楽しみにしています。よろしくお願います。

北澤 正浩/①兵藤さん、卓話楽しみにしております。②皆出席祝いをありがとうございます。

二宮 登/①兵藤さん、卓話たのしみにしています。②48年皆出席祝いをありがとうございます。

兵藤 哲夫/本日、卓話当番です。よろしくお願います。

安藤 達雄(公一代筆)/皆様からの暖かいおこころごしに感謝申し上げます。

■卓話「戌・犬・狗年にちなんで」

兵藤 哲夫

年賀状の整理が未だできていない。こんなことをしていると、あっという間に来年の年賀状の季節になってしまいそうだ。

今年は例年通り300枚用意しましたが、足りなくなり100枚増刷をしてしまった。昨今、パソコンで作ることが多くなったが、私は旧知の印刷屋に持ち込んでいる。もう数十年の付き合いだ。俺もおやじも歳をとった。でもこの印刷屋のおやじと年に一度会わないと正



月を迎えられないということである。

今年はいぬどし。動物病院開業以来、このいぬたちに飯を食べさせてもらった。結婚して5人の子供をもうけ、家を建て楽しませてもらったのも、このいぬたちのおかげである。恩義を感じている。

今年の年賀状には戌(いぬ)という字が踊った。この難しい戌の字は日常つかわないので、なんとなく違和感がある。いぬは犬が良い。

十二支は、戌である。十二支の11番目にくてくるのが、この戌である。中国でもこの戌はつかっていないく、狗と書くそうだ。もつばら、方位を表し、時刻を表す時に使うと云うことです。

十二支は中国でも難しく、子供でもわかり易くするために皆が知っている動物を当てはめただけです。本来この戌(いぬ)という難字のいみは、ひとまとめにする、束にする、収穫などを意味する字であり、犬とはまったく関係がない宛て字であります。ややこしい話である。

犬という字は象形文字であり、中国でも犬と書いていたが、現在では狗と表記しているそうです。狗とは犬が小さく丸くなったかわいい、という意味になります。

犬のことわざはたくさんあります。が、あまり良い意味でつかわれているものは少ないようです。あいつは犬だ、という言葉には他人の秘密を嗅ぎまわるスパイの意味があります。犬侍・いぬざむらいとは、下っ端、うだつのあがらない侍で、人を卑しめ、軽んじている言葉です。犬死とは、その死がなんの意味ももたない、無駄で役に立たない死のことで、尊厳をもって死にたいものです。

夫婦げんかは犬も食わない、は仲裁に入っても良い結果は得られない、けんかしていたかと思うとすぐ仲良くなり、けろっとした様子、やっつけられないよう、という意味

のようです。

犬猿の仲ということわざもあります。元々仲よくできない間柄のことです。犬と猿は元々生活様式が違いけんかしないものです。まず、犬と猿では食べ物違って争いにならないし、木の上と地上、ましてやメスのとりあいなど種族が違ってありえないことです。このことわざは、人間がむりやり犬と猿を近づけて両方が恐怖を感じたことから生じたものでしょう。犬の遠吠え、ということわざは、人間社会の中であいつはいつも口先だけで文句は言うが、体を張って解決に当たろうとはしない意味です。

有名なのに、犬も歩けば棒に当たる、ということわざがあります。このことわざには二つの意味があるようです。一つはじーっとしていてもいいことなどありません、社会で行動することにより、わざわいもある代わりに、幸運にもあうことができますよ、引きこもりの人やおたくの人には、もっと社会にでなさい、と云いたい思いです。

犬は3日飼えば恩をわすれない、のことわざは、他人から恩義を受けたなら一生その恩を忘れてはならないという教訓です。現代人はやってあげても恩を感じてくれる方が少なくなりました。忘れてはならない大事な教訓です。まだまだ義理人情の世の中ですぞ、くれぐれもお忘れないように。

それにしても、全般的にさげすんだことわざが多いようです。昔の犬は評価が低かったですね。寝るところもない、食べるものもなく、ただただ人間の残り物を頂戴して家から家を廻って物乞いし、水をかけられ、棒で追われ、それは苛酷な生活をしていたことでしょう。それにつけ現在の犬たちは、エアコンのある家の中で寝て、栄養満点なフードをもらい、家族の一員として愛され、なんて幸せなのでしょう。

動物の扱いを見ればその国の文化程度が変わると云います。犬が幸せならば世の中は平和なのです。犬だけでなく全ての生き物が自然の摂理の中で生きることを望んでいます。決して人間がこれを壊すことのないように心がけなければなりません。

■次週の卓話

3/7(水) 災害復興支援フォーラム

坪井 均様 (NPO 法人難民を助ける会)

週報担当 青木 邦弘